

奈良・平城宮跡（第四一次調査）

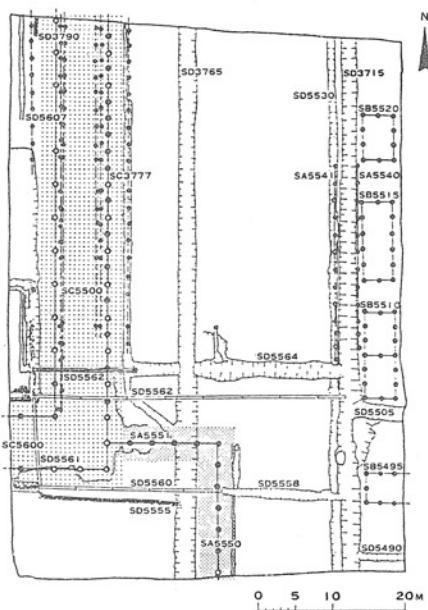
- | | |
|---------------|---------------------|
| 所在地 | 奈良市佐紀町 |
| 調査期間 | 一九六七年（昭42）七月～一月 |
| 発掘機関 | 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部 |
| 調査担当者 | 杉山信三 |
| 遺跡の種類 | 宮殿・官衙跡 |
| 遺跡の年代 | 奈良時代～平安時代初期 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

第四一次調査地は平城宮第一次大極殿院築地回廊東南隅付近で、

第一次朝堂院区画施設との接合部を含む地域である。面積は四一〇〇m²である。

検出した主な遺構は、大極殿院東面築地回廊SC五五〇〇、南北築地回廊SC五六〇〇、朝堂院の東北隅部分を区画する掘立柱塀で、後に築地に改作されるSA五五五〇・五五一、宮内基幹排水路の南北溝SD三七六五、SD三七六五を東に移動して設けられた南北溝SD三七一五、SC五五〇〇の西側雨落溝SD三七九〇、東側雨落溝SD五五七五、SD五五七五から南東に流れてSD三七六五に注ぐSD五五八四、大極殿院内の排水を受けSC五六〇〇を横断する暗渠SD五五五六、SD五五五六から東へ折れSD三七六五に流

入する暗渠SD五五五五、SD五五五六を改作したSD五五六一、SD五五六一から東へ折れる暗渠SD五五六〇、SD五五六〇から東へ延びてSD三七一五に流入する開渠SD五五五八、SC五五〇〇を横断しSD三七一五に排水する東西暗渠SD五五六二、SD五六二の北で同じくSC五五〇〇を横断する暗渠SD五五六三、SD五五六三から東へ延びてSD三七一五に流入する開渠SD五五六四、第二次大極殿・朝堂院地域からSD三七一五に流入する東西溝SD五四九〇・SD五五〇五などである。このうちSA五五五〇・五五五一は靈龜頭以降に設けられ、それに伴いSD三七六五が東に移動しSD三七一五となる。



木簡が出土したのは、SD三七六五、SD三七一五、SD三七一五の西岸にあり、同溝よって破壊されている土壌SK五五三五、SD五五六四、SD五四九〇の五ヵ所である。

SD三七六五は幅一・六m、深さ〇・六mで、木簡から和銅年間に存在したことがわかる。一一点出土したが断片が多い。

SD三七一五は幅二・三m、深さ一mで、堆積土は上下二層に大別できるが、水流のためか乱れがあり、層位による時期・内容の区分はできない。七六五点出土したが上層からの出土が多い。木簡の年紀から溝が靈龜頃から奈良末まで存続したことがわかる。

SK五五三五は幅一・八m、深さ〇・三mの不整形の土壌で、靈龜元年（七一五）銘のあるものを含む一七点の木簡が出土した。

SD五五六四は幅二・三m、深さ〇・六mで、堆積状況からするとSD三七一五が逆流した形跡があり、木簡の性格もSD三七一五のものと同類とみなしうる。八点出土した。

SD五四九〇は幅一m、深さ〇・二mある。木簡は七三点出土したが判読不能のものが多い。

8 木簡の釈文・内容

SD三七一五から内容的に興味深いものが多数出土しているが、その中では兵衛府・中衛府に関するものが注意される。兵衛府から中衛府に宛てたものがあるので、中衛府あるいはその関連の官衙・施設で廃棄されたとみられる。人名を列記したものがあるが、中衛

の交名であろうか。中衛府は神亀五年（七二八）から大同一年（八〇七）まで存続し、内裏周辺の警衛や供奉に従っていたとみられるので、木簡が廃棄地点からあまり流下していないとすれば出土地近辺に中衛府の詰所的施設のあった可能性が考えられる。

付札では貢進物荷札は少なく、海産物等の食料品の物品付札が多い。出土場所からみて内裏などの宴会用の食料品であったかもしない。出土場所からみて内裏などの宴会用の食料品であったかもしない。

このほか『続日本紀』神護景雲二年六月乙巳条の任官記事とほとんど一致する記載のあるものが注目される。

年紀の知られるものは神護景雲三年が右記のものを含め三点、宝亀元年が一点あり、他の木簡もこの時期頃のものとみて矛盾しない。

溝SD三七六五

(1) 和銅□

(2) 「▽一之郡末滑海×

091

(3) □以前等三物

(81)×17×4 039

(4) • □□忍麻呂前

091

『更級郡』

(5) □□□□魚八斤五兩
満2011年1月

(117)×6×4 081

(8) 「請繩參拾了 右為付御馬并夜行馬所請」

・「如件 神護景雲三年四月十七日番長非淨浜」
323×25×4 011 *

(6) 兵衛府移中衛〔府力〕

091

(7) • ×衛府移 中衛府 一番正八位下〔賀茂力〕
• ×□仍故移

(192)×11×3 081 *

(10) •「真竜列 □部真神 物部老」

152×13×4 011 *

•「阿奈石□ □□□人合四人」
〔赤力〕

152×13×4 011 *

(9) 兵衛等充行夜使如件

091

•「式部大〔輔大伴益立〕

伊賀守伊勢子老 遠江介藤井川守 出雲〔守布力〕

内倉介安〔倍〕草万呂

周方守弓削秋万呂〔兼勢〕
〔人主〕

伊与守高円広〔世力〕下總員外〔介力〕

桑原王〔兼力〕

•「下野介当〔麻王〕

伊伎〔守力〕

守田部息万呂

右兵衛〔右兵衛〕

介弓削広〔方〕

能登〔守石川人麻呂〕

都支〔都支力〕

左馬司頭牟〔王〕

文屋〔文屋力〕

万呂

員外介〔弓削薩麻〕

相模波〔伊波力〕

玄蕃〔助〕相模波〔伊波力〕

」 343×37×3 011 *

1977年以前出土の木簡

(27) 右京一条三坊  「卅九」

091

飛驒國 

(111)×(10)×2 081

(28) 「尾張國 ×」

「赫甲贏交作鮑一壩」

102×50×3 051

• 「調塙三×」

「薄鰯卅七斤五編\」

170×26×5 031 *

(29) 「\進上錢一百卅文」

71×11×2 033

「蒸鮑老籠\別卅口」

148×24×3 051 *

• 「\丹比宅万四」

「蠣腊三籠」

160×24×3 051 *

(30) • □田部稻人 大伴

「雜魚楚割一籠」

130×25×3 051 *

×伴小刀良 鳴□

「雜魚腊」

106×21×3 051 *

□□ □

「\押年魚土\」

61×14×3 031 *

□

「\鹿\」

68×17×3 032 *

×人 合十

「\伊知比古」

57×20×3 032 *

□足

「\鹿\」

57×20×3 032 *

(31) • 外衛府 

「『乃止淨麻呂乃官』

(102)×(50)×3 081

• □□□□

「德足德德鳳至」

57×20×3 032 *

(32) • ×鳳至郡

「謹淨繼繼繼人

• ×美崎所生」

『解力』

119×30×13 011

(44)

溝S D H四九〇

「飯飯飯飯」

飯飯飯
〔飯飯〕

206×20×4 032

(50)

「▽揖保郡一斗九升」

請
〔飯〕
四升四合

英多郡
・

(127)×(17)×2 051 *

飯飯
〔飯〕

飯飯
〔飯〕

(98)×20×4 059

『御曹司』中

奈羅
〔列丸〕

(236)×38×4 081

飯
□□ □□〔造〕飯三升

口径255～262, 高さ15 061

天山司解 進上飛炎卅九枝
・

(30)×(15)×4 081

勘了
〔勘了〕

(151)×(16)×4 081

溝S D H五六五

9 関係文献

靈龜元年九月
〔45〕

奈良國立文化財研究所『平城宮発掘調査報告X』(一九八一年)

(30)×(15)×4 081

同『奈良國立文化財研究所年報一九六八』(一九六八年)

(加藤 優)

〔46〕

靈

溝S D H五六六四

9 関係文献

・「去勝宝九歲」
〔47〕

奈良國立文化財研究所『平城宮発掘調査報告X』(一九八一年)

(30)×(15)×4 081

・「奈良□□五」

同『奈良國立文化財研究所年報一九六八』(一九六八年)

(加藤 優)

一升人給□□□〔料力〕
〔48〕

091

奈良國立文化財研究所『平城宮発掘調査報告X』(一九八一年)

(30)×(15)×4 081

「熬海鼠」

同『奈良國立文化財研究所年報一九六八』(一九六八年)

(加藤 優)

127×17×2 051 *